

施工手順書④-2

クローゼット

物入片開き戸、両開き戸
連続開き戸 1枚・2枚・4枚・6枚タイプ

ステルス枠 施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。
※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。

①木工事

①-1.ステルス枠・標準仕様 / ①-2.ステルス枠・準耐火仕様

①-3.インセット枠仕様

②クロス・塗り壁工事
(ステルス枠・インセット枠共通)

③扉・金物の取付

(ステルス枠・インセット枠共通)

③-1. 片開き戸、親子戸

③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)

③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)

③-4. 片引き戸(床付レール)

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④~⑨)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

④クローゼット

④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、連続開き戸

④-3. スライド片開き戸

⑤オートマチックドア

⑤-1. 片引き戸(上吊) ⑤-2. 片開き戸

⑥ヴェトロ・ミラノ

⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 片開き戸

⑦カエサル

⑦-1. スイング戸、両スイング戸、サイドガラスユニット

⑦-2. アウトセット片引き戸(上吊)

⑧マルコ

⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上吊)

⑨フィット

⑨-1. スイング戸 ⑨-2. 片引き戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)、引分け戸

施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

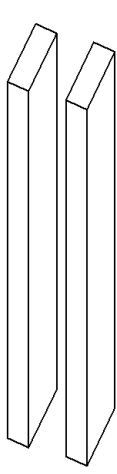
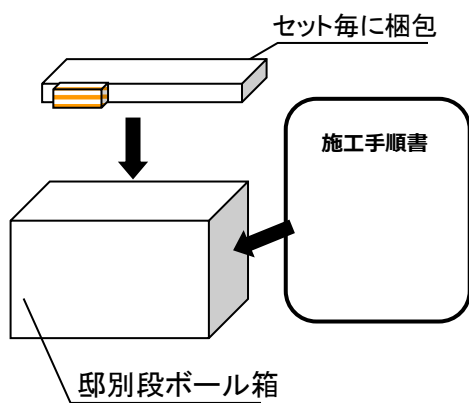
- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

□納品形態

扉と同時に納品されるもの

建具	建具同梱金物
 <p>スライド丁番取付用 穴加工済み</p> <p>取手取付用 下穴加工済み(裏)</p>	 <p>※建具同梱上部に同梱</p>

下地枠と同時に納品されるもの

下地枠	下地金物箱
 <p>縦枠下地×2本 ※枠取付用下穴加工済み ※座金取付用下穴加工済</p>	 <p>セット毎に梱包</p> <p>施工手順書</p> <p>郵便段ボール箱</p>

□物入片開き戸・両開き戸

forクローゼット枠

施工手順書2024/8改訂

□金物箱、建具の梱包内容

下地金物箱		片開き戸 標準	片開き戸 OPプッシュラッチ	両開き戸 標準	両開き戸 OPプッシュラッチ
取付ビス 	H09	4本	4本	4本	4本
	H12	6本	6本	6本	6本
	H18	8本	8本	8本	8本
	H24	8本	8本	8本	8本
	H27	10本	10本	10本	10本
座金 	H09	2セット	2セット	4セット	4セット
	H12	3セット	3セット	6セット	6セット
	H18	4セット	4セット	8セット	8セット
	H24	4セット	4セット	8セット	8セット
	H27	5セット	5セット	10セット	10セット
化粧キャップ 	H09	2ケ	2ケ	-	-
	H12	3ケ	3ケ		
	H18	4ケ	4ケ		
	H24	4ケ	4ケ		
	H27	5ケ	5ケ		

建具及び同梱金物		片開き戸 標準	片開き戸 OPプッシュラッチ	両開き戸 標準	両開き戸 OPプッシュラッチ
建具 	H09	1枚	1枚	2枚	2枚
	H12				
	H18				
	H24				
	H27				
取手 	H09	1セット	-	2セット	-
	H12				
	H18				
	H24				
	H27				
スライドヒンジ 	H09	2セット	2セット	4セット	4セット
	H12	3セット	3セット	6セット	6セット
	H18	4セット	4セット	8セット	8セット
	H24	4セット	4セット	8セット	8セット
	H27	5セット	5セット	10セット	10セット
	特記	キャッチ有り	キャッチ無し	キャッチ有り	キャッチ無し
ソフトクローズ キャッチ 	H09	1セット	-	2セット	-
	H12				
	H18				
	H24				
	H27				
プッシュラッチ 扉側取付  天井側取付 	H09	-	1セット	-	2セット
	H12				
	H18				
	H24				
	H27				

施工前の確認事項

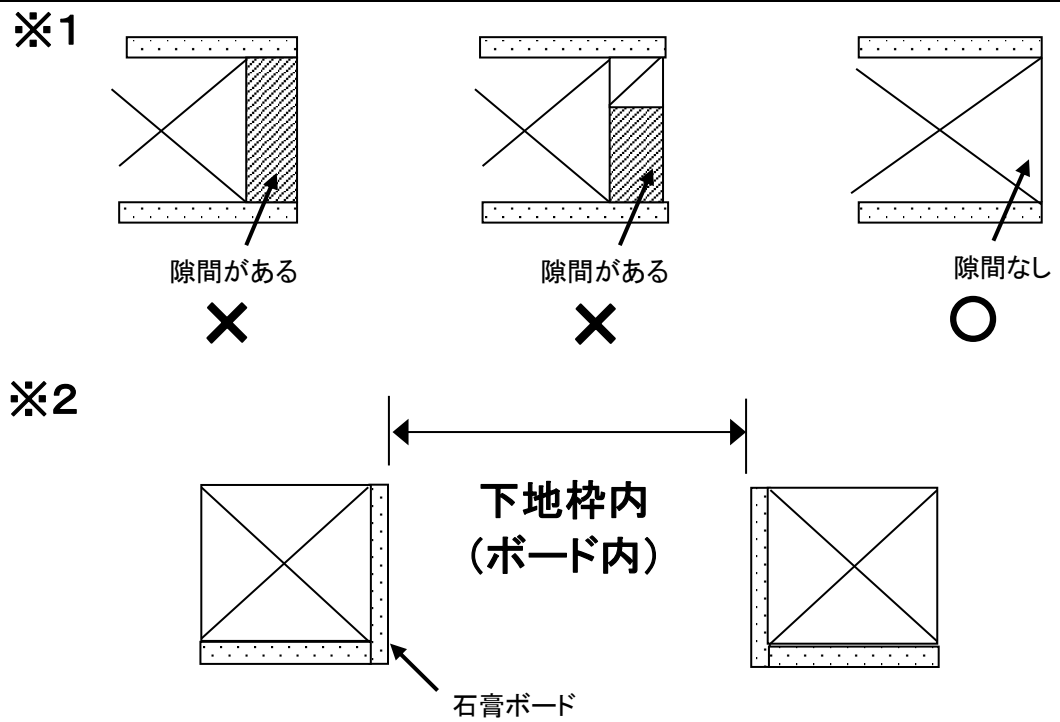
上枠下地・見切り材を取り付ける前に、開口部の巾（図面：下地枠内ボード内）と、高さ（図面：床仕上げ～開口高さ）の確認をしてください。
（見切り材は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください）

【注意事項】

※1 見切り材は躯体（構造材）と面接合するように取り付けますので、見切り材の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。

※2 施工前のW寸法確認には、図面上の下地枠内寸法（ボード内）を確認してください。

※開口部(柱・まぐさ等)の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。

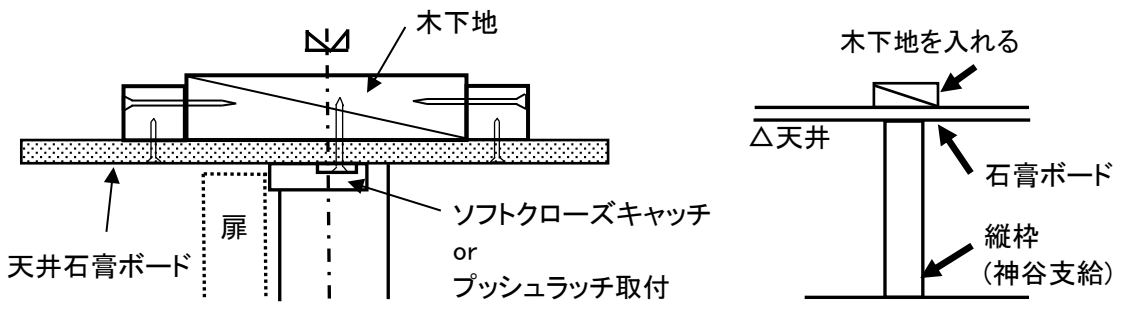


天井・木下地の取付け

天井石膏ボードを取り付ける際には、必ず木下地を入れてください(取り付け位置は納まり図を確認)。

【注意事項】

天井仕上げ面の上からソフトクローズキャッチ、若しくはオプションのプッシュラッチをビスで取り付けます。



ポイント

※上枠は納品されません。石膏ボードとクロスで仕上げてください。石膏ボードを取り付ける際には、必ず木下地を入れてください(取り付け位置は納まり図を確認)。天井、若しくは下がり壁天端の仕上げ材の上からソフトクローズキャッチ、若しくはオプションのプッシュラッチをビスで取り付けます。ソフトクローズキャッチ、若しくはオプションのプッシュラッチの取り付けビスは石膏ボード厚を考慮し、L=35mmで同梱しています。

□物入片開き戸・両開き戸

forクローゼット枠

施工手順書2024/8改訂

縦枠の取付け

柱に石膏ボードを取付けます。縦枠を石膏ボードの上から面付けします。取付位置はボード面から33mm入った所に取付けます。

<石膏ボード厚>
標準：12.5mm
準耐火仕様：15mm

※()内は準耐火納まりの仕様です。

縦枠は正寸カットで納品していますので現場にてカットしないでください

※縦枠を柱ではなく小壁等に固定する場合は、ビスが反対側より突き出ないか注意

ポイント

- ※縦枠は石膏ボードの上から直接取付けてください。
- ※収納内部に棚を設置する場合は、縦枠よりも裏側の位置に取り付けてください。
- ※縦枠を柱ではなく、小壁等に固定する場合はビス(L=50mm)が反対側より突き出ないか事前に確認してください。

シンプル幅木の取付

幅木を接着剤で見切り材まで回して取付けてください。接着剤はVカット部も接着剤を塗布してください。

接着剤全面塗布 (推奨：酢ビ系)

幅木の取付け方

※接着剤を塗布しないと割れ易くなります。

幅木コーナー役物のVカット部も接着剤を塗布して下さい。

ポイント

- ※必ず幅木のVカット部分に接着剤を塗布してください。幅木が割れる可能性があります。

クロス施工

天井・壁にクロスを貼ってください。※下がり壁納まりの場合、石膏ボードと上枠下地の接合部分にメッシュテープとパテ処理をしてからクロスを貼ってください。

【下がり壁納まり】の場合

下がり壁納まりの場合、上枠と石膏ボードの接合部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行う







メッシュテープ

パテ処理



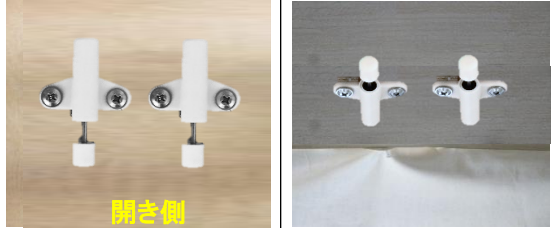
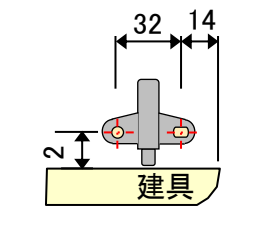
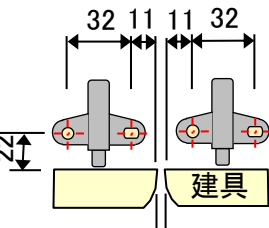
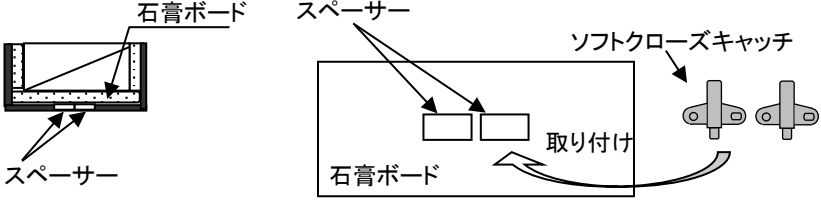
ポイント

- ※下がり壁の場合、上枠下地と石膏ボードの接合部はメッシュテープとパテ処理をしてください。




金物取付	
<p>【扉側】 建具を吊り込む前に、建具裏側の加工位置に合わせて、付属のビスでスライド丁番を取り付けます。最後は手動ドライバーで完全に固定してください。丁番は建具に同梱されています。</p>	
<p>【枠側】 枠に座金を取り付けます。あらかじめ下穴があいてあるので、付属のビスにて取付け、最後は手動ドライバーをもって完全に固定してください。座金は金物箱に同梱されています。</p>	
<p>ポイント</p>	<p>※ビス固定の際は、ビスを垂直に挿入して固定してください。 ※電動ドライバー等で強く締めすぎるとビス頭が潰れてしまう恐れがありますので、トルク調整に注意し、最後は手締めにて完全に固定してください。 ※片開きの場合は吊元側のみ座金の下穴加工がされています。</p>

扉の吊り込み				
<p>枠側の座金の手前のくぼみ部分に、スライド丁番裏側の掛かり部分を引っ掛けます。</p>				
	座金金物	座金の手前のくぼみ部分に引っ掛ける		
<p>スライド丁番のクリップ部分を、座金の突起部分に押し当てて装着させ、吊り込み完了です。 また、はずす時は奥の黒い部分を押し脱着させてください。</p>				
	クリップ部分を座金の突起部分に押し当てる	装着時の“パチン”の音を確認	はずす時は奥の黒い部分を押し	脱着させる
<p>ポイント</p>	<p>※建具の上下の取り違いにご注意ください。 ※スライド丁番と座金は、パチンと音が鳴るまでしっかりと押し当てて装着してください。</p>			

取手・ソフトクローズキャッチの取付

<p>取手付の場合は、取手によって取付け穴が違います。裏側に半貫通の穴が空いているので、下穴を貫通させて付属のビスにて取手を取り付けてください。（取手は建具に同梱されています）</p>	 <p>開き戸建具裏側 半貫通穴(Φ4.5)</p> <p>建具裏面の半貫通穴(Φ4.5)をドリルで垂直に貫通させる</p>	 <p>取手の取付け(両開きの場合)</p>	<p>【注意】 ※下穴を貫通させる前に取手の取り付けピッチを確認してください。</p>
<p>ソフトクローズキャッチを開口上部所定位置(両開き戸の場合は2箇所)にソフトクローズキャッチを取り付けてください。(ソフトクローズキャッチは別途下地金物箱にあります)</p>	 <p>開き側</p> <p>ソフトクローズキャッチの取付け</p>	 <p>吊元側</p> <p>取付け位置(片開き)</p>	 <p>取付け位置(両開き)</p>
<p>【塗り壁時のソフトクローズキャッチの取付】 物入れ両(片)開き戸の下り壁仕様の場合、ソフトクローズキャッチを塗り厚分のスペーサーの上から取り付けてください。</p>	 <p>石膏ボード スペーサー ソフトクローズキャッチ 取り付け 石膏ボード</p> <p>ソフトクローズキャッチを塗り厚分のスペーサーの上から取付</p>	<p>【注意】 ※物入れ両(片)開きの下り壁の塗りは、塗り厚分のスペーサーと同面まで塗ってください。</p>	
<p>ポイント</p>	<p>※ソフトクローズキャッチでの調整はできませんので、取り付け位置を確認してください。 ※ソフトクローズキャッチには天井取付用にL=35mmのビスが同梱されています。カウンター下等に取付ける場合はビスが貫通しないように現場手配のビスで取付けてください。</p>		

スライド丁番の調整


<p>建具吊り込み後に調整が必要な場合は、図の順序に従って調整してください。調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。調整は建具を吊ったままの状態で行えます。</p>	 <p>緩めて上下にスライドさせる</p> <p>上下方向の調整 ビスを緩めて丁番を上下にスライドさせる</p>	 <p>時計回り戸先側に寄る 反時計回り吊元側に寄る</p> <p>左右方向の調整 時計回し → 戸先側 反時計回し → 吊元側</p>	 <p>緩めて前後にスライドさせる</p> <p>前後方向の調整 ビスを緩めて丁番を前後にスライドさせる</p>	<p>【調整範囲】 上下方向：±1.5mm 左右方向：戸先側3.0mm 吊元側1.0mm 前後方向：±2.0mm</p>
<p>ポイント</p>				

□連続開き戸 1枚/2枚/4枚/6枚タイプ

forクローゼット枠

施工手順書2024/8改訂

□建具の梱包内容

邸別の下地枠と同時に納品されるもの		開口1セットにつき	
開口定規  ※定規の長さはご注文内容により異なります	H10	1本	
	H18	1本	
	H24	1本	
	H27	1本	

建具及び同梱金物		扉1枚につき		
		標準	OPプッシュラッチ	
建具  ※スライド丁番、取手用の穴加工済み	H10	1枚		
	H18			
	H24			
	H27			
吊り込み用治具  12mm×30mm×250mm	H10	1本 (1梱包につき)		
	H18			
	H24			
	H27			
取手  ※取付ビス付 ※取手デザインはご注文内容により異なります	H10	1セット	-	
	H18			
	H24			
	H27			
座金  ※取付ビス付	H10	2セット		
	H18	4セット		
	H24	4セット		
	H27	5セット		
スライドヒンジ ※梱包袋裏面青色  ※取付ビス付 ※プッシュラッチ仕様の場合、 梱包袋表面に黄色テープ有り 	H10	キャッチ有り	2セット	-
		キャッチ無し	-	2セット
	H18	キャッチ有り	4セット	-
		キャッチ無し	-	4セット
	H24	キャッチ有り	4セット	-
		キャッチ無し	-	4セット
	H27	キャッチ有り	5セット	-
		キャッチ無し	-	5セット
ソフトクローズ キャッチ  ※取付ビス付	H10	1セット	-	
	H18			
	H24			
	H27			
プッシュ ラッチ  ※取付ビス付 扉側取付 枠側取付	H10	-	1セット	
	H18			
	H24			
	H27			

□梱包内容

邸別の下地枠と同時に納品されるもの		開口1セットにつき	
開口定規  ※定規の長さをご注文内容により異なります	H24	1本	
	H27	1本	
建具及び建具梱包内に含まれるもの		扉1枚につき	
建具  ※全面ミラータイプは重量があるため、扉1枚につき1梱包となります。 ※スライド丁番、取手用の穴加工済み	H24	2枚 (取手1ヶ)	
	H27	2枚 (取手1ヶ)	
吊り込み用治具  1 2 mm × 3 0 mm × 2 5 0 mm	H24	1本 (1梱包につき)	
	H27		
建具金物箱		扉1枚につき	
取手  ※取付ビス付 ※扉2枚の内、向かって右側の扉に1ヶ現場取付	H24	1セット	
	H27		
座金(ベースプレート)  ※取付ビス付	H24	4セット	
	H27		
座金(ディスタンスプレート)  ※取付ビス付	H24	4枚	
	H27		
スライドヒンジ ※梱包袋裏面青色   ※取付ビス付 ※プッシュラッチ仕様の場合、 梱包袋に黄色テープ有り 	H24	キャッチ有り	2セット
		キャッチ無し	2セット
	H27	キャッチ有り	2セット
		キャッチ無し	2セット
ソフトクローズ キャッチ  ※取付ビス付	H24	1セット	
	H27		
【注意事項】 ※全面ミラータイプの扉は、他のクローゼット扉と異なり、 重量扉用 のスライド丁番を使用していますので金物、及び加工寸法に互換性はございません。			

スライド丁番の取付け

【扉が全面ミラーでない場合】

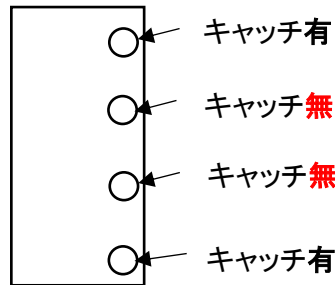
建具を吊り込む前に、建具裏側の加工位置に合わせて、付属のビスでスライド丁番を取り付けます。最後は手動ドライバーで完全に固定してください。丁番は建具に同梱されています。



【扉が全面ミラーの場合】

建具を吊り込む前に、建具裏側の加工位置に合わせて、付属のビスでスライド丁番を取り付けます。最後は手動ドライバーで完全に固定してください。
キャッチ付のスライド丁番は上下、キャッチ無しは間の2箇所に取付けてください。

扉裏面



ポイント

※ビス固定の際は、ビスを垂直に挿入して固定してください。

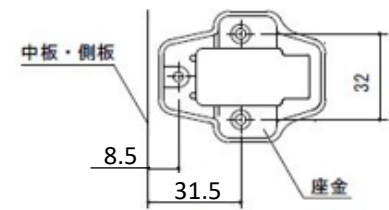
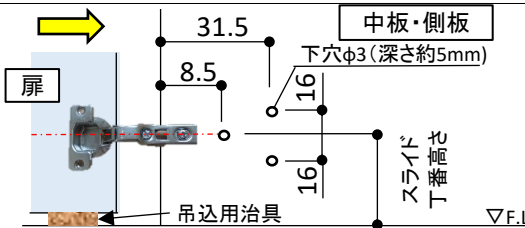
※電動ドライバー等で強く締めすぎるとビス頭が潰れてしまう恐れがありますので、トルク調整に注意し、最後は手締めにて完全に固定してください。

※片開きの場合は吊元側のみ座金の下穴加工がされています。

座金の取付け

【扉が全面ミラーでない場合】

座金取付位置を確認し、座金を取付けます。扉を同梱の吊り込み用治具の上に置き、中板・側板に扉を近づけ、座金の取付位置を確認してください。

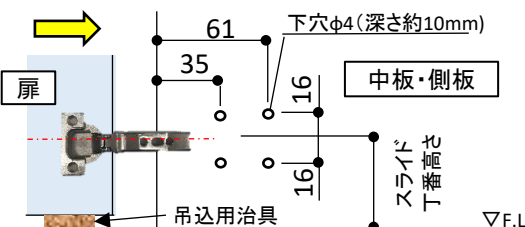


扉を吊込用治具の上に載せ、中板・側板に近づけて座金取付位置を確認し下穴を開ける

座金を取付ける

【扉が全面ミラーの場合】

座金取付位置を確認し、座金を取付けます。扉を同梱の吊り込み用治具の上に置き、中板・側板に扉を近づけ、座金の取付位置を確認してください。



扉を吊込用治具の上に載せ、中板・側板に近づけて座金取付位置を確認し下穴を開ける

ディスタンスプレートを取付ける

ディスタンスプレートの上に座金を取付ける

ポイント

※建具の上下の取り違いにご注意ください。

※スライド丁番と座金は、パチンと音が鳴るまでしっかりと押し当てて装着してください。




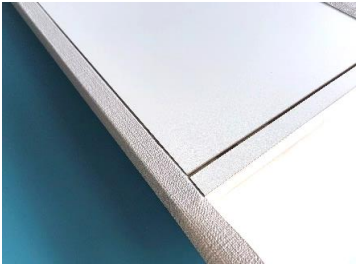
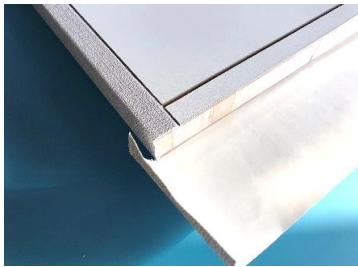

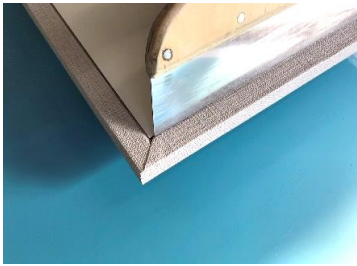
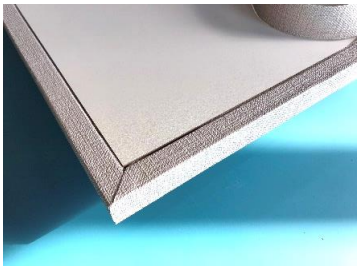
建具の吊り込み				
<p>【扉が全面ミラーでない場合】</p> <p>枠側の座金の手前のくぼみ部分に、スライド丁番裏側の掛かり部分を引っ掛けます。</p> <p>スライド丁番のクリップ部分を、座金の突起部分に押し当てて装着させ、吊り込み完了です。</p> <p>スライド丁番をはずす時は奥のつまみを手前に押しつけて脱着させてください。</p>		 <p>パチン</p>		
	座金の手前のくぼみ部分に引っ掛ける	クリップ部分を座金の突起部分に押し当てる	<p><脱着方法></p> <p>奥の黒いつまみを手前に押しつけて脱着させる</p>	
<p>【扉が全面ミラーの場合】</p> <p>枠側の座金の手前のくぼみ部分に、スライド丁番裏側の掛かり部分を引っ掛けます。</p> <p>スライド丁番のクリップ部分を、座金の突起部分に押し当てて装着させ、吊り込み完了です。</p> <p>スライド丁番をはずす時は奥のつまみを手前に押しつけて脱着させてください。</p>		 <p>パチン</p>		
	座金の手前のくぼみ部分に引っ掛ける	クリップ部分を座金の突起部分に押し当てる	<p><脱着方法></p> <p>奥のつまみを手前に押しつけて脱着させる</p>	
ポイント				

【全面ミラー】建付け調整・ハンドル・ソフトクローズキャッチの取付け				
<p>※【扉が全面ミラーでない場合】の調整・ハンドルの取付けに関しては本手順書P8をご覧ください。</p> <p>建具吊り込み後に調整が必要な場合は、図の順序に従って調整してください。調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。調整は建具を吊ったままの状態で行えます。</p> <p>ハンドルとソフトクローズキャッチを取付けます。</p> <p>ハンドルは同梱のビスで手動ドライバーを使いハンドルを取付けてください。</p> <p>ソフトクローズキャッチは右図の寸法で取付けてください。</p>	 <p>緩めて上下にスライドさせる</p>	 <p>時計回り 反時計回り 吊元側に寄る</p>	 <p>緩めて前後にスライドさせる</p>	<p>【調整範囲】</p> <p>上下方向：±3mm</p> <p>左右方向： 戸先側4.0mm 吊元側0mm</p> <p>前後方向： 前方向1.5mm 後方向2.5mm</p>
	上下方向の調整 ビスを緩めて丁番を上下にスライドさせる	左右方向の調整 時計回し → 戸先側 反時計回し → 吊元側	前後方向の調整 ビスを緩めて丁番を前後にスライドさせる	
<p>同梱のビスでハンドルを取付け</p>			 <p>開き側</p>	 <p>32 11 11 32 24 建具 2(4)</p>
			ソフトクローズキャッチの取付位置 ()内はMM6型の場合	
ポイント				

□MK-4型【扉・現場クロス貼り仕様】

forクローゼット枠
 施工手順書2024/8改訂

仕様について		
<p>扉の表面と小口はクロス下地、裏面は化粧シート仕上げとなっています。 裏面にはクロス見切り用の底目地(巾3mm×深さ3mm)が上下左右の端部から15mmの位置に加工済・スライド丁番の座堀加工済、また取手金物が取り付けられる場合は裏面からパイロットホールが半貫通の状態です。</p>	 <p style="text-align: center;">表面</p>	 <p style="text-align: center;">裏面</p>
	<p>表面：クロス下地(MDF素地) 小口：クロス下地(プライマー付エッジテープ) 裏面：化粧シート仕上げ(アイボリー色)</p>	 <p style="text-align: center;">裏面</p>

クロスの貼り方			
<p>①クロスは裏面に巻き込み、底目地よりクロスが3cmほど長くなるように糊付けカットし、表面、小口面の順にへらで空気が入らないように貼り付けていきます。</p> <p>②クロスを長手方向の底目地に差し込み、へらで良く抑え、カッターで余分なクロスをカットしてください。</p> <p>③長手方向のクロス巻き込みの完成です。</p> <p>④写真のように上下の角のクロスに切り込みを入れます。</p> <p>⑤②と同様にクロスを上下の底目地に差し込み、へらで良く抑え、カッターで余分なクロスをカットしてください。</p> <p>⑥扉のクロス貼りの完成です。</p>	<p style="text-align: center;">①</p> 	<p style="text-align: center;">②</p>  	
	<p style="text-align: center;">③</p> 	<p style="text-align: center;">④</p>  	
	<p style="text-align: center;">⑤</p> 	<p style="text-align: center;">⑥</p> 	
	<p>注意</p> <p>※クロスの厚みは0.5mm以下としてください。 ※木粉が付いている場合は乾いたウエスでよく拭き取ってからクロスを貼ってください。 ※貼りにくいクロスで小口や底目地でクロス糊りが効きにくい場合は、扉の小口や裏面の端部から15mmの四周と底目地に捨て糊(プラゾール(ヤヨイ科学)原液等)を刷毛で薄く塗ってから貼ってください。 ※クロス仕上げ後のキズ・汚れ・剥がれについては対象外となりますので、取り扱いにご注意ください</p>		

□MK-4型【扉・現場塗装(ペイント)仕様】

forクローゼット枠
施工手順書2024/8改訂

仕様について		
<p>扉の表面と小口は塗装下地、裏面は化粧シート仕上げとなっています。 裏面にはスライド丁番の座堀加工済、また取手金物が取り付けの場合は裏面からパイロットホールが半貫通の状態での納品されます。</p>	 <p style="text-align: center;">表面</p>	 <p style="text-align: center;">裏面</p>
	<p>表面：塗装下地 小口：塗装下地 裏面：化粧シート仕上げ(アイボリー色)</p>	 <p style="text-align: center;">裏面</p>

塗料の選択と塗装方法								
<p>塗料の選択 造膜型塗料をご使用ください。 また、右記載の【推奨塗料】以外の塗料をご検討の場合は、無償の面材サンプル(塗装下地)をお取り寄せいただき、試し塗りを行ってください。</p> <p>塗装方法 ①シーラーは不要です。塗装下地面材に付着した埃や汚れを落とした後、直接塗装してください。 ②表面材と裏面材の端部にマスキングテープで養生し、小口を塗装します。 ③小口の塗装後、表面材を塗装します。裏面材は化粧シート仕上げのため、塗装しないでください。 ④一度目の塗装が完全に乾燥した後、2度目の塗装を①②の順で行います。</p>	<table border="1"> <tr> <th>造膜型塗料(表面に塗膜を造るタイプ)</th> <th>浸透性塗料(木材内部に浸透するタイプ)</th> </tr> <tr> <td> アクリル樹脂系塗料、ウレタン樹脂系塗料 水性塗料を推奨します </td> <td> ス테인塗料 使用できません </td> </tr> <tr> <td>  <p style="text-align: center;">カラーペイント チョークボードペイント <small>※クリア塗料は使用できません。</small></p> </td> <td>  <p style="text-align: center;">ステイン塗料全般</p> </td> </tr> </table> <p>【推奨塗料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラーワークス「HIP」 ・友安製作所「ウォールペイント・マットウォール」 ・カンペハピオ「マットペイント」 ・ターナー色彩「チョークボードペイント」 <p>※上記の推奨塗料は当社で試し塗り後、クロスカット試験に合格したものを挙げています。</p>	造膜型塗料(表面に塗膜を造るタイプ)	浸透性塗料(木材内部に浸透するタイプ)	アクリル樹脂系塗料、ウレタン樹脂系塗料 水性塗料を推奨します	ス테인塗料 使用できません	 <p style="text-align: center;">カラーペイント チョークボードペイント <small>※クリア塗料は使用できません。</small></p>	 <p style="text-align: center;">ステイン塗料全般</p>	
	造膜型塗料(表面に塗膜を造るタイプ)	浸透性塗料(木材内部に浸透するタイプ)						
アクリル樹脂系塗料、ウレタン樹脂系塗料 水性塗料を推奨します	ス테인塗料 使用できません							
 <p style="text-align: center;">カラーペイント チョークボードペイント <small>※クリア塗料は使用できません。</small></p>	 <p style="text-align: center;">ステイン塗料全般</p>							
	<p style="text-align: center;">塗装方法①</p> 	<p style="text-align: center;">塗装方法②</p> 	<p style="text-align: center;">塗装方法③</p> <p style="text-align: center;">塗装は2度塗り</p>					
<p>注意</p>	<p>※漆喰や珪藻土など左官塗りはできません。また、開閉に影響がある著しい盛り上げ塗装もできません。 ※ローラー短毛タイプで塗装することを推奨します。 ※塗装仕上げ後のキズ・汚れ・剥がれについては対象外となりますので、取り扱いにご注意ください。 ※塗装仕上げの剥がれの原因となりますので、養生テープは使用しないでください。</p>							